



7月の園だより

令和5年7月1日

目黒区立田道保育園長

雨上がりの青空は、夏の訪れを感じさせます。梅雨が明けるのももうすぐです。園庭では泥んこ遊び、虫探しとこの時期ならではの遊びを楽しむ子どもたちの賑やかな声がしています。

6月のすもう月間で幼児クラスはすもうを活動に取り入れています。初取り組みでは幼児クラスで見合いました。5歳児クラスが取り組む姿を3、4歳児クラスの子どもたちは真剣な表情で見っていました。時折「がんばれ」「OOちゃん。つよい」と声援が聞こえてきました。先日、3歳児クラスがホールで取り組みを行っていたので見に行きました。クラス担任に声をかけられたので、子どもたちと取り組みをしました。子どもたちは真剣な表情でぶつかって取り組み、力強く押してきます。しかし、押し出されて土俵の外に出て負けてしまうと悔しくて泣き、担任に抱きかかえられています。「次はがんばろう」と声をかけられると大きく頷いていました。その日の夕方、クラスの前を通りかかると、悔しくて泣いていた子が「次は絶対負けたくないからね」と声をかけてきました。負けた経験が次は勝ちたいという思いにつながっていることが感じ取れました。30年以上続いている田道保育園のすもうは体づくりの一環ではありますが体だけではなく、心も育てていることを強く感じました。また次回、どんな心の成長が見られるか楽しみです。

今月も引き続き保育参観や個人面談を行っていきます。お子さんの家庭での様子を伺いながら、保護者の方々と保育園が同じ気持ちで子育てをしていけるように努めていきたいと思えます。

今月の予定

なつまつり（3・4・5歳） 七夕集会（3・4・5歳）

プール開き ※中旬 身体計測・避難訓練



「葉っぱ」

めだか組（0歳クラス）

部屋から窓を見つめ、上の方を指さしています。壁面の犬の絵を見つけたのかと思い「ワンワンいるね」と声をかけましたが振り向かず、もう一度同じ所を指さしています。同じ目線になって見てみると窓から大きく葉っぱが揺れているのが見えました。「葉っぱ揺れてるね」と声をかけると振り返り、保育士を見つめて“そうそう葉っぱ見つけたの”と保育士が気づいたことが嬉しそうでした。一緒に葉っぱが揺れているのを見てると今度は手で掴もうとしているのか手を伸ばしていました。子どもたちの仕草や表情を見逃さず受け止め、言葉にしてやりとりを楽しんでいます。



「自分で！！」

あひる組（1歳児クラス）

園庭で子どもたちをマットに乗せて保育士が縄で引っ張って遊んでいるとAちゃんがやってきました。「ここどうぞ」と空いている場所を伝えましたが首を振って縄を持っている保育士の方へやってきます。どうやらマットに乗るのではなく、引っ張るのをやりたい様子。「どうぞ」と持つ場所を空けて一緒に引っ張ろうとすると保育士を押し自分一人でやることをアピールしています。「頑張ってるね」と声をかけるとグューと縄を引っ張り始めますがもちろんピクリとも動かず…。しばらくすると「できない」とつぶやいた後、マットにちょこんと座っていました。色々な場面で自分でやってみようと挑戦する姿がたくさん増えています。



「みかんシチュー」

2歳児クラス（らっこ組）

給食のシチューを食べている時に「このシチューあまい」「コーンのあじがする」と口々に言っています。すると一人の子が「みかん」のシチューだよと言いました。「そう？みかんなのね」と言うと「そうだよ。みかん」と大きくなすきました。「これはにんじんとコーンなんだよ」と他の子が教えますが「ちがうよ、みかんだよ」と自信満々で答え、おいしそうに食べています。人参の鮮やかなオレンジ色とコーンのつぶつぶ感と甘さが“みかん”のように感じたのかなと思いました。これからも子どもたちの豊かな感覚や発想を大切に受け止めていきます。



◎6月場所開幕◎～すもうの取り組み～



田道保育園では平成2年から異年齢保育の活動の一つとしてすもうを始めました。6月と2月は天候などで戸外に出られることが少ない時期でもあるため、すもう月間としています。

3歳児クラス（ペンギん部屋）

大きな土俵で初めての取り組みをするペンギん組の力士たち。くじら組やいるか組の取り組みを見てイメージを沸かせたようで、腕組みをして胡坐をかいてにらみを利かせ「先生、次呼んでね」「次は誰の番？」と取り組みに自分の名前が呼ばれるのをまだかと待っています。名前が呼ばれるといち早く飛び出して「のこった！」の声に合わせて全身を使って取り組む姿はとても頼もしいです。保育士に勝った時は友だちと顔を見合わせ、笑顔いっぱい喜び合っています。「先生に勝った」「次も頑張って勝つ！」と意欲満々のペンギん部屋です。



4歳児クラス（いるか部屋）

6月場所は子ども同士1対1で取り組みを行っています。Aくんは土俵に入ると迷うことなくBくんを指名しました。にらみを利かせ“ぜったいにまけない”という強い気持ちが伝わってきます。両者強い押しでしたが接戦の末、Aくんは負けてしまいました。ペンギん組の時には負けると悔しくて号泣していましたがいるか組になると悔しくて泣きたい気持ちをぐっと堪えて唇を噛みしめながら次の対戦を見守っていました。勝負では負けてしまいましたがその姿や繰り返しBくんを指名する姿にたくましさや心の成長を感じました。勝って嬉しく飛び上がる気持ち、悔しくて泣きたくなる気持ち、友達と対戦を繰り返して様々な気持ちを味わいながらもまた次への対戦へと立ち上がるいるか組の力士たちは一人ひとりとても輝いています。

5歳児クラス（くじら部屋）

相撲の取り組みは力の強さや体の大きさだけでなく、“踏ん張る、腰を落とす、足の先に力を入れる、相手をにらみつける、あきらめない”など、一つひとつの動作や気持ちがその日の勝敗を決めます。頑張ったのに負けてしまい、残念そうに戻って行く子に「ふんばったね。すごい」と声をかけました。すると悔しさが一気に込み上げてきたのでしょうか。座った途端にワ～と泣き出しました。その様子に周りの子どもたちもちょっと心配そうですが黙って見守る姿があります。頑張ったのに負けてしまった悔しさは誰もが経験済みだからこそその光景です。グッと唇を噛みしめて涙を堪えている姿もあります。そんなときはあえて声をかけずにいるのですが、自分で気持ちを落ち着けて次に気持ちを切り替えて行く様子はさすがくじら組です。相撲を通してまた一つ心も身体も大きくなったことを実感しています。